

事務事業	108	路面下空洞調査					
章	3	安全で快適な、みどりのあるまち					
大項目	03	快適な生活環境づくり					
施策	02	人にやさしい道路、交通施設の整備					
事業内容							
目的	路面下の空洞を把握し、道路陥没等を未然に防ぐため実施します。						
対象・手段	防災上重要な路線やバス路線等、区民生活を支える主要な区道を対象に、地中レーダーによる探査及び解析を行い、空洞の有無の確認と原因の究明を行います。						
成果(事業が意図する成果)							
路面下の空洞を把握し補修することで、道路陥没による事故の防止が図られます。							
事業成果指標							
指標名		定義			目標水準		
調査延長(車道部)		年間の調査延長			(毎) 年度に (50.5Km) の水準達成		
調査延長(歩道部)		年間の調査延長			(毎) 年度に (17.5Km) の水準達成		
					() 年度に () の水準達成		
成果の達成状況							
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
事業 成果 指標	目標値 1	km	50.50	50.50	50.50	50.50	
	実績 1	km	52.32	52.83	57.11	48.49	
	= /	%	103.60	104.61	113.09	96.02	
	目標値 2	km	17.50	17.50	17.50	17.50	
	実績 2	km	21.71	26.74	23.27	17.81	
	= /	%	124.06	152.80	132.97	101.77	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成18年度	車道調査 57.1km (空洞数 14) 歩道調査 23.2km (空洞数 3)						
平成19年度	車道調査 48.4km (空洞数 17) 歩道調査 31.1km (空洞数 4)						

部名称		みどり土木部		課名称		道路課	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	16,200	16,201	16,200	16,201	
	人件費	千円	2,501	2,501	2,484	2,478	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	18,701	18,702	18,684	18,679	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	18,701	18,702	18,684	18,679	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	18,701	18,702	18,684	18,679	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.30	0.30	0.30	0.30	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>平成19年度で4ヵ年計画の予定箇所が終わったことから、調査頻度等を見直し、主要な路線に絞っていた調査路線を、生活道路まで拡大するなどの検討が必要です。</p>							
評価基準に基づく評価と理由 「3.2.1」の3段階評価です。	達成度	3	調査予定路線だけでなく緊急的調査が必要な道路にも対応していることから、計画以上の調査実績になっています。				
	実施の成果	3	平成19年度は21箇所、また、調査開始からの累計は152箇所の空洞を発見し、陥没防止に役立っています。				
	効率性	3	職員による調査に比べて、非破壊かつ正確に調査ができることから費用対効果が向上しました。				
	行政の関与	3	道路管理者である区がおこなうべき業務です。				
	妥当性	3	事故が生じた場合、区政に対する信頼を大きく損なうとともに、著しい経済的損失が発生する場合もあるため、この調査はこの事故を事前に防止する意味で有効であり妥当です。				
	施策寄与度	3	本調査を実施することは、道路管理の考え方を従来の道路陥没発生後処置から未然対策処置に移行するものであり、区道の良好な維持管理に大いに寄与しています。				
総合評価	平成19年度の評価をBとしたのは、ほぼ調査予定延長を実施したためです。また過去3年間の実績はAと評価します。計画路線に留まらず区民からの要望箇所に即座に対応し、区民の安全・安心に対して当初の目標以上の貢献をしたことによります。なお、調査開始からこれまでに合計152箇所の空洞を発見し陥没を未然に防ぐことができました。						B 過年度評価 18年度 A 17年度 A 16年度 B 15年度
	改革方針	この事業は、道路の保全について事後保全から予防保全への転換を目指し、これまで計画事業として実施してきました。空洞を事前に把握して道路陥没を防止するだけでなく住民の不安の解消などにおいて期待以上の実績があったことから、今後は経常事業「路面下空洞調査」として継続していきます。平成20年度からの調査では、平成19年度までの4ヵ年計画での調査結果をもとに、調査頻度を見直す代わりに調査対象路線の拡大を検討します。					